

江戸時代から続く伝統行事 提灯竿もみまつり

江戸時代から続く伝統行事「古河提灯竿もみまつり」が12月5日、JR古河駅西口のおまつり特設会場で行われました。

今回で155回目の祭りは、矢来と呼ばれる高さ約10メートルの囲いの中で、長さ約20メートルの竹竿をぶつけあい、竿の先につけた提灯の火を消しあうという「関東の奇祭」と言われています。県内外からも大勢の見物人が訪れ、約7万人の人出でにぎわいました。

今回の競技もみ(大人部門)の優勝は「雷電一丁目自治会」。竹がバチン、バチンとぶつかりあう音と勇壮な掛け声が夜空に響き渡り、もみ手の人々の熱気が多くの観衆を魅了しました。



ご協力ありがとうございました

江戸時代から続く伝統行事「第155回古河提灯竿もみまつり」が12月5日、無事終了しました。今回は、大人部門に15団体、子供部門に12団体、約1,000人のもみ手にご参加いただき祭りを盛り上げていただきました。誠にありがとうございました。

また、祭りの準備・当日の交通規制にご協力いただきました警察署をはじめ関係各位、近隣の皆さまに厚く御礼申し上げます。

古河市観光協会
古河提灯竿もみまつり実行委員会



▲歩行者天国となった道路の両側にテントが並び、大勢の買い物客で終日にぎわう古河ほこてんマルシェ会場



▲特設ステージでのイベントで会場は大盛り上がり